

## “パリの旅”

ああ！なんてステキなこと  
こんな陰気な土地を離れて  
パリに行くなんて  
楽しいパリ  
この町をかつて作ったのはきっと  
愛の神さまなのよ

## “愛の小径”

海に向かう小径は、私たちが通った名残り、  
手折った花と、木々の下にこだました  
私たちふたりの明るい笑い声。  
ああ、幸せの日々、  
光り輝く喜びは飛び去り、  
私は行く、心のなかに痕跡を見出すことなく

私の愛の小径を、あなたを今も探している

迷い道にあなたはおらず

あなたの声が響くことはない。

絶望の小径、思い出の小径、

初めての日の小径、神聖な愛の小径。

いつか忘れなければならないのか、

人生はあらゆることを消し去ってしまうから。

でも私は心の中にこの思い出を

別の愛よりも強く取っておきたい。

小径の思い出、

この小径で震えながら、うっとり  
と、

私の上にあなたの熱い手を感じた  
あの日、私の愛の小径...（繰り返  
し）

## “夢のあとに”

君の姿が魅了するまどろみの中

ぼくは夢見てた 幸せを、燃え上  
がる幻影を

君の瞳は優しく、君の声は澄んで  
響き

君は光り輝いてた、朝焼けに照ら  
される空のように

君はぼくを呼び、そしてぼくはこ  
の地上を離れて

君と一緒に飛び立ったのだ 光に  
向かって

空はぼくたちのために雲の扉を開  
き

未知なる栄光が、神々しい閃光が  
ほのかに見えた

ああ！ああ！悲しい夢からの目覚  
め

ぼくはお前を呼ぶ、おお夜よ、ぼ  
くに返してくれ お前の偽りの幻  
を

戻れ、戻ってくれ、輝きよ

戻れ、おお 神秘の夜よ

## “噴水”

あなたの美しい眼は疲れている、  
可哀そうな恋人よ

暫くそのまま置いておくれ、眼を  
明けることなく

そのしどけない姿のままに

快樂があなを襲ったときの、そ  
の姿のままに。

中庭では、噴水がさざめいている

昼も夜も黙することなく、

恍惚を優しく保たせてくれる

この夕べ、愛が私を陥れてしまっ  
た恍惚に。

水の花束は、揺っている

幾千もの花を、月光は水の花を貫  
ぬく

蒼白い光、水の束は落ちる、驟雨  
のような大粒の涙となって。

同じように、あなたの魂に火をつ  
けたのは、快樂の燃え上がる閃光。

それは翔る、瞬く間に、大胆に

美しい大空に向かって。

それからあなたの魂は、息絶える  
ように

悲しい憂いの波に流れ、  
眼に見えない傾斜を辿って

私の心の奥に降りてくる。

☐

おお愛しいひと、夜はあなたに絶  
世の美しさを与えた、

なんと心地よいことだろう、あな  
たの胸に身を傾けて

永遠の嘆きの声に聴き入ることは。

泉水のなかですすり泣く（嘆きの  
声に）！

月よ、爽やかに響く水よ、祝福さ  
れた夜よ、

あたりにさざめく木々よ、

お前たちの澄んだメランコリーは、

私の愛を写し出す鏡。

☐

## 「蝶々夫人」ある晴れた日

ある晴れた日、海の彼方にひとす  
じの煙が上がるのが見えるでしょ  
う。やがて船が姿を見せます。

その真っ白い船は港に入り、礼砲  
を轟かせます。

見える？ あの人がいらしたわ！

でも私は迎えには行かないわ。行  
かないの。

あそこの丘の端に立って待つわ、  
長い時間。すると・・・人々の群  
れから離れ

小さな点のように見えるひとりの  
人が丘に向かって来るわ。

誰でしょう、誰かしら。

どんなふうにして着いたのかしら。

なんと言うでしょう。なんて言う  
かしら。

遠くから「蝶々さん」と呼ぶでし  
ょう。

でも私は返事をしないで、隠れて  
いるわ。

それはちょっとはいたずらでもあるし、

久しぶりに会うので喜びに死んでしまわないためでもあるのよ。

それである人は少しばかり心を傷めて呼ぶでしょう。呼ぶわ。

「かわいい妻よ、美女桜の香りよ」

これはあの人が来た時私につけてくれた名前なの。

(スズキに)

すっかりこのとおりになるのよ、約束するわ。あなたは心配していればいいわ。

私はかたく信じて、あの人を待っています

### 「お菊さん」太陽の恵みの元

日は太陽の恵みの下に、夜は星の下で夢見る

畑、森の中では終わることないざわめきの音が、旅人の道を導く

またその音が透明で震える小川を益々魅力的にする

竹林の近くで娘がそれを笑顔で聞いている

聞聞いてごらんなさい、それはセミの歌う声！森の周辺で聞いてみて

まだ暗い星空の下、それはセミの声

セミたちが花や若さや愛について歌っているのです

セミよ、私はあなたたちの事が好きよ

何故なら貴方たちは私と姉妹だから、私たちは同じように歌って、心を動かすの。

森の中で私たちは一緒に歌って、皆を魅了するの。娘が笑顔で、私たちの事を聞いているのよ。

### “出現”

月は悲しげだ。天使たちは涙にくれ

夢みつつ、手には弓、花たちの静けさの中

霞んでいく、消え入るようなヴィオールの調べ

白いすすり泣きが滑っていく 花冠の青さの上を。

それは初めてのあなたからのくちづけで祝福された日

私を苦しめるばかりのこんな夢は

悲しみの香りにもう酔いつぶれていた

だがその香りには、後悔も失望もなかった

夢を摘み取ってもそれは摘み取った者の心に残る

それで私はさまよった、目は古い石畳を見つめていた

そのとき髪に日を浴び、この街角に

この夕暮れの中、笑いながらあなたは現れたのだ

私は見たと思った、光の帽子をかぶった妖精を

その昔、甘えてばかりいた子供の頃の幸せな眠りの中で

妖精は通り過ぎたものだ、いつも白い花束から

香りの星をその手で雪のように降らせながら

### 「ファウスト」宝石の歌

ああ、私はこの鏡に映る

自分の美しい姿を見て喜びを覚えるわ！

あなたなの、マルガレーテ？

答えて頂戴、早く答えて

いいえ！いいえ！もうあなたでは無くなっているわ！

もうあなたの顔では無くなっているわ！

もうその顔は王の娘の顔

通り過ぎる度に誰もがひれ伏すわ！

### 「カルメン」ミカエラの歌

何も怖くないとは言ったけれど

ああ 自分の身は自分で守ると言っただけ

いざ勇敢に立ち向かおうとすると

心の底では 死ぬほど怖いわ

ひとり この未開の地で

たったひとりで怖い

でも 怖がってはいられない

勇気をください

お守りください 主よ

私は例の女性と間近で会うの

彼女の呪われた手管で

ついには汚辱にまみれてしまった

私がかつて愛した人は

彼女は危険で そして美しい

でも私は恐れはしない

彼女の前できっぱり言うわ

ああ! 主よ ...お守りください

ああ! 何も怖くないとは言ったけれど

### 「ホフマン物語」舟歌

美しい夜、おお恋の夜

喜びに微笑む

またとない甘き時間

おお美しき恋の夜よ！

過ぎ行く時は 戻ることなく

慈愛の情も遠く運び去る

時は過ぎ行く 戻ることなし